

芸術の秋。
子どもと一緒に芸術鑑賞、してみませんか？
でも、ただ行って観て終わりで、じゃあ味気ない。
家に帰ってから余韻がたのしめる、
展示会とワークショップの紹介です。

「麦の法則：スローウィートプロジェクト」
6月26日(土)よりグランドオープンしたアーツ千代田3331館内のカフェに併設されたアートダクトが展示スペースに。土の入った使用済みペットボトルに麦を植え、育った麦の葉で青汁ジュースをたのしみ、搾りかすはまた肥料に……その循環プロセスそのものがテーマの展覧会。*麦の成長具合によって展示の状況が異なります。

開催中 ~11月28日(日)
アーツ千代田3331(東京都千代田区) 無料 *8月21日(土)14時~、有機野菜で大きなマンダラサラダをつくり、その残り野菜でミニコンポストをつくるワークショップ開催。
〈問〉アーツ千代田3331
tel. 03-6803-2441



トボトルに層になるように次々と重ねて入れていきます。枯れ葉や水を加えたら、ミニコンポストの完成です。そのまま家で分解過程を観察することができます」

今回も8月21日(土)にこのワークショップを開催。クレヨンハウスの有機野菜やくだものも利用されます。

メッセージ / 受け入れ、世界を広げる

今回の展示に「麦」を選んだのには理由がありました。

「麦はどこでも育つ強さをもっているという点で、アートに通じるものがあります」と、加藤さん。ところが、今回の展示にあたり、オーストラリアとは気候などの条件が違うため、うまく育たず困ったのだとか。

「生きものを相手に、こちらの思い通りに育つだろうなんて、とんだ思い上がりでした！でも、そこがいい。大変だけれど、あえてややこしいものを引き受け、そこから新しいものをつくるのがアートであり、それが世界を広げるのだと思います」

それは、廃校を利用したここ「アーツ千代田3331」にも共通点があると話します。「現代アートは敷居が高い印象があるけれど、そのイメージをやわらかくしてもらえれば」と加藤さん。子ども連れでふらりと立ち寄ってみて！

みどころ1 / 日々変化する麦に注目！

展示場所は、館内カフェにある喫煙室脇のダクト内。使用済みペットボトルに植えられた麦の葉がいくつも吊るされ、涙型のガラスのオブジェが光を反射し清々しい！鑑賞者が自分で種を植えることもでき、育った葉の青汁もそこで飲めるのだそう。出た搾りかすもまた、土に還して利用します。「そこには『目をかけて、手をかけて一緒に育つ』というメッセージがあります。これは、生きる基本であり、わたしのアートの基本でもあります」と加藤チャコさん。「見るたびに変化し、変化を終えたらまたゼロに戻る。作品制作ではいつも、次につながるもの、循環するものをとを考えています。また、そのプロセス自体がアートだと思うのです」

みどころ2 / ミニコンポストづくりも！

もともと、野菜やくだものを育て、食べることも好きという加藤さん。スナック菓子とは違う、生きているもののよさを子どもたちに伝えたいという思いから、これまでも子どもたちと野菜やくだものを使ったワークショップを行ってきました。「野菜を輪切りにすると『にんじんの中には太陽がある！』『トマトの中にはお花が！』など、中に広がる宇宙に気づきます。そして、手にとって、においを嗅いだり、カットした野菜を並べて曼荼羅をつくったり、サラダをつくって食べたり。今度は残りがすや皮などを色別にコンテナに分けて入れ、サラダバーのようにして並べて、空のベッ

見るたびに変化する「循環する」企画展

東京都千代田区にある廃校を利用したアートスペース「アーツ千代田3331」。その館内カフェの中に、エコフレンドリーな空間が誕生! 「循環」をたのしむ展覧会、メルボルン在住のアーティスト・加藤チャコさんによる「麦の法則：スローウィートプロジェクト」を紹介します。

お話*加藤チャコさん(アーティスト、絵本作家)

撮影*泉山美代子

かとう・チャコ 宮城県生まれ。アーティスト。絵本作家としての顔ももち『まおちゃんのうまれたひ』(のら書店)の絵を手がけるなど作品多数。オーストラリア・メルボルンの緑豊かな地で、文筆家の夫・渡辺鉄太さんとふたりの子どもたちと暮らす。